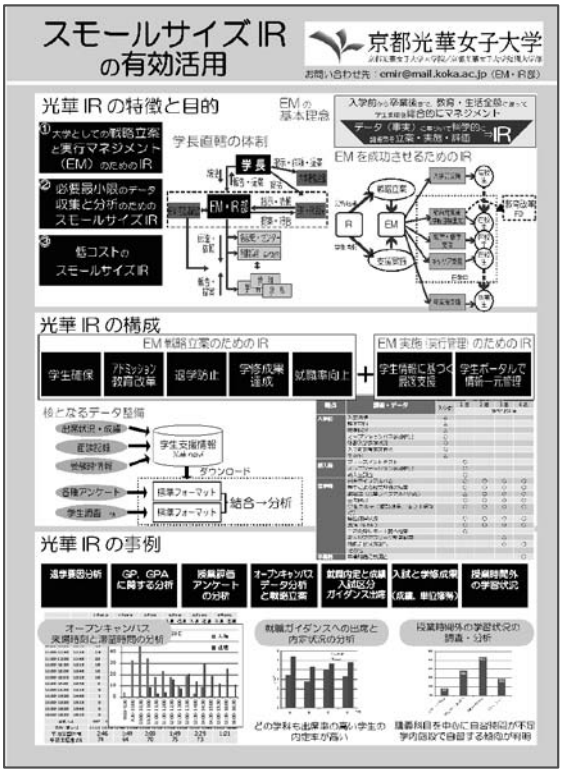
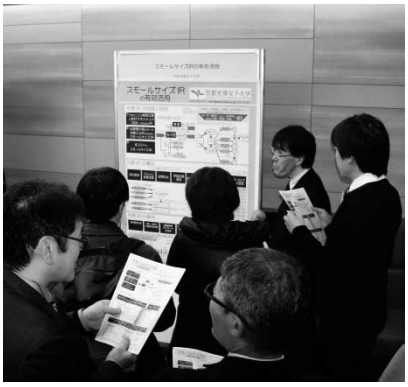
社会を生き抜く力を育てるために

2/23（日）
10：00ー15：30（コアタイム：12：00ー13：30）
22号館 地下2F 食堂 特設会場

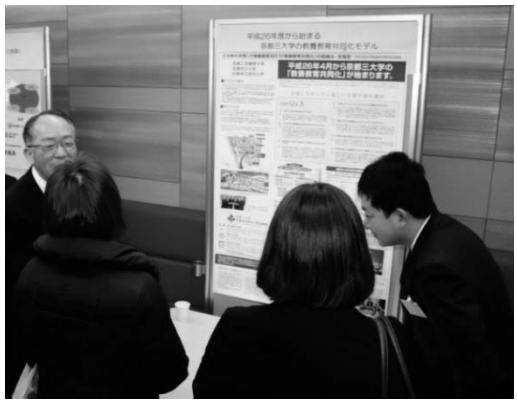
FD に関する情報収集、参加者間の交流を目的として、ポスターセッションが行われました。大学コンソーシアム京都加盟大学の教員、職員、学生が所属大学の特徴的な FD の取り組みを発表しました。

テーマ	スモールサイズ IR の有効活用			
学校名	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部			
発表代表者	橋本　智也			
連名発表者	相場　浩和	阿部　一晴	土佐　嘉宏	宇野　哲司
	徳山　昌子			
キーワード	IR		エンロールメント・マネジメント	
	教育改革		データ解析	
概要	最近，大学改革の一環として，IR に強い関心が持たれている．IR に関するシンポジウムや研修会も頻繁に開催されている．IR は現在，かなり幅広い解釈がされているが，多くは組織とその活動に関する現状評価と理解され，大規模なデータベースの構築を前提に議論されることが多く，その活用が主題になることはまだ多くない．これに対して本学では，大学としての戦略立案と実行時マネジメントのための IR, すなわち活用するための IR を提案している．戦略はデータ（事実）に基づいて立てる必要があり，実行時にはデータに基づいたマネジメントが必要である．そのための IR では，大規模なデータベースを必要とすることはない．本学では，そのコストパフォーマンスを考え，利用目的に沿った必要最小限のスモールサイズ IR とすることを提案している．本発表では，このような視点に立って実施している本学の IR について，有効活用している事例を報告する．			

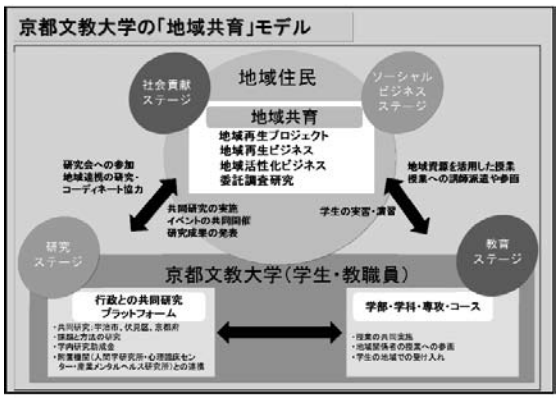




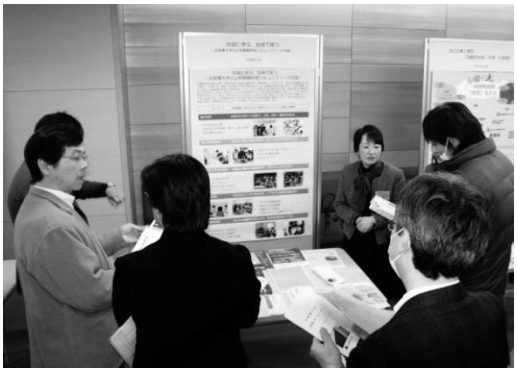
テーマ	平成 26 年度から始まる京都三大学の教養教育共同化モデル			
学校名	京都三大学教養教育研究・推進機構			
発表代表者	児玉　英明			
連名発表者	森本　幸治			
キーワード	教養教育の共同化		質保証モデル（教学ＩＲ）	
	大学間連携の新段階		単位互換から共同化へ	
概要	京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学は、各大学の特徴・強みを活かしたカリキュラムを提供し、学生の多様な関心に応え、総合的に物事を観察し、的確に判断できる能力と豊かな人間性の涵養を図っていくため、平成 26 年度から全国初となる教養教育共同化をスタートします。三大学は、それぞれ 100 年を超える歴史を持ち、国内外で活躍する有為な人材を多く輩出してきましたが、変化の激しい今日にあって、時代が求める新たな教養教育を構築していくため、次の三点を狙いとして取り組みます。 ①三大学は個々には規模が小さく、各大学で提供できる科目には限りがあるため、各大学の強みと特徴を生かした科目を提供しあい、学生の科目選択の幅を広げ、学習意欲を一層高めること。②文系、理工系、医学系の専門分野や将来の志望の異なる三大学の学生が授業で混在し、多様な視点や価値観を交流して、一緒に学ぶ学修空間を創り出すこと。③学生間での交流や討論、共同学修が進むよう学生参画型の授業を広げていくこと。 本報告では、単位互換を超えた共同化モデルの仕組み、大学間連携による質保証のありかたなど、時代が求める新たな教養教育の方向性について、紹介します。			



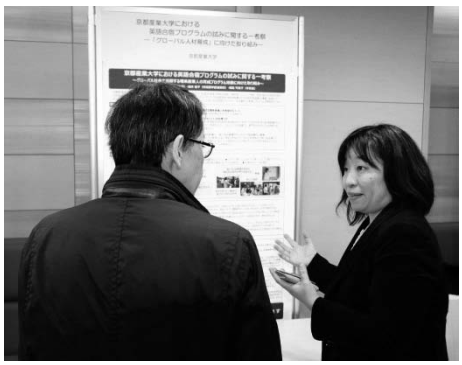
テーマ	地元企業と育む『持続的地域「共育」の実践』			
学校名	京都文教大学			
発表代表者	押領司　哲也			
連名発表者				
キーワード	中小企業		PBL	
	対話型・双方向授業		低年次からの取組	
概要	総合社会学部における産学協働の取り組み、特に地元の中小企業と協働した授業、実習等を通じて、地域と共に学生を持続的に育む取り組みについて紹介する。 総合社会学部では、１回生春学期の「総合社会とキャリア構築」（学部必修科目）において、地元中小企業の若手社員を招き、就業観・職業観などを涵養している。２回生以降の学部共通科目「現場実践教育科目」は、卒業要件の科目群に位置づけられ、その中の「プロジェクト科目」では、京都中小企業家同友会と連携し、講師派遣や会社見学などを授業内容に盛り込むクラスを設けている。また、３回生では、京都の地元企業などから「課題」「テーマ」をいただき、ＰＢＬの手法で課題解決を試みる「エクスターンシップ実習」を展開している。学生は社員の方々を前にプレゼンテーションを行い、評価・講評を受けている。			

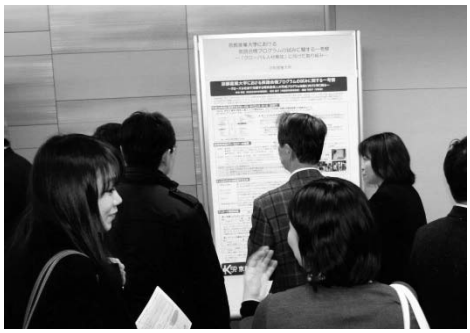


テーマ	地域に学ぶ、地域で育つ ー京都橘大学の山科醍醐学習コミュニティーの活動ー			
学校名	京都橘大学			
発表代表者	木下　達文			
連名発表者	河原　宣子	永野　光朗	堀江　淳	有坂　道子
キーワード	地域連携		学習コミュニティー	
	まちづくり		地域人材育成	
概要	京都橘大学は創立以来、地域に根ざし地域に貢献する「地域志向」の大学として、地元山科醍醐地域と深く関わってきました。現在、５学部１０学科を擁する文・社・医療系の総合大学となり、地域の健康・安心・安全、地域経済の活性化や観光まちづくり、文化の振興と生活の質の向上など、多面的な社会貢献活動に取り組んでいます。本学は、このような活動の中で、正課・課外の教育の一環として、多くの学生を地域に送り出しています。学生はキャンパスを出て、地域での見、聞き、肌で感じる生きた体験によって大きく成長します。京都橘大学がこれまで取り組んできた地域連携の実績とともに、学生が地域に学び、地域で育つ、地域学習コミュニティーの学習システムについて発表します。			



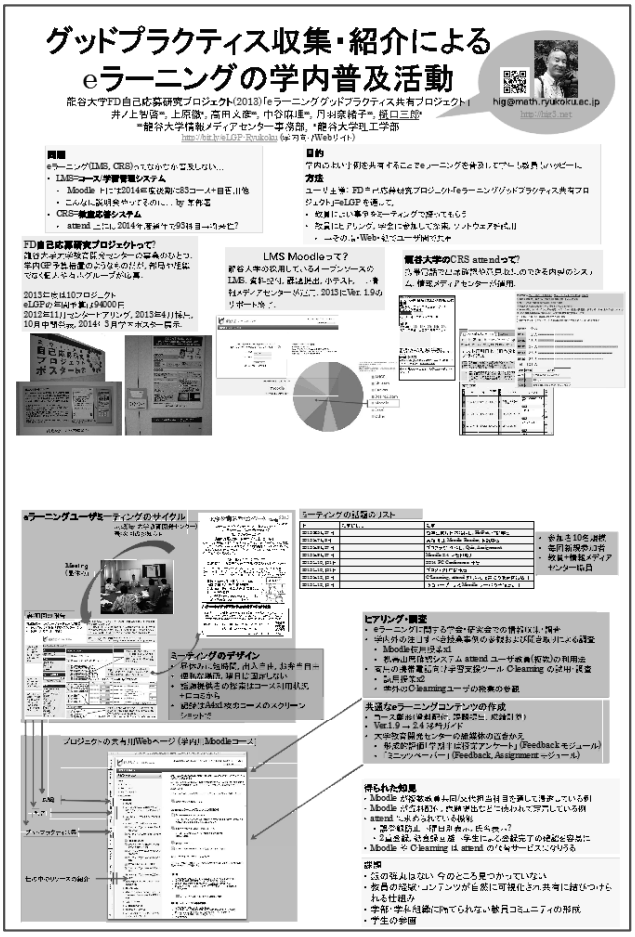
テーマ	京都産業大学における英語合宿プログラムの試みに関する一考察 ―「グローバル人材育成」に向けた取り組み―			
学校名	京都産業大学			
発表代表者	中村　暢宏			
連名発表者	桜井　延子	森脇　可奈子		
キーワード	グローバル・サイエンス・コース		プログラム開発	
	英語合宿プログラム		論理的思考力	
概要	京都産業大学は、文部科学省「グローバル人材育成推進事業」の採択を受けて、平成 26 年度に、理系３学部（理学部・コンピュータ理工学部・総合生命科学部）の「グローバル・サイエンス・コース」及び、外国語学部の英語学科に「イングリッシュ・キャリア専攻」を新設する。グローバル・サイエンス・コースでは、外国語学部で新規開講される「英語サマーキャンプ」（二泊三日）が必修科目となるため、プログラムの開発を目的として、平成 25 年度に理系３学部の学生を対象に、一泊二日の英語プログラム（サマーセミナー）を試験的に実施した。参加した学生 36 名は、「高校における理想の理系の授業」をテーマとした英語でのディスカッション及びプレゼンテーションにチームで意欲的に取り組み、事後アンケートの結果からも高い満足度を得ることができた。理系学生の活発な英語学習活動を可能とした合宿型プログラムの構成を振り返り、その成果と、今後、本学で展開する英語合宿プログラムの運営及び、学習支援の課題を報告する。			

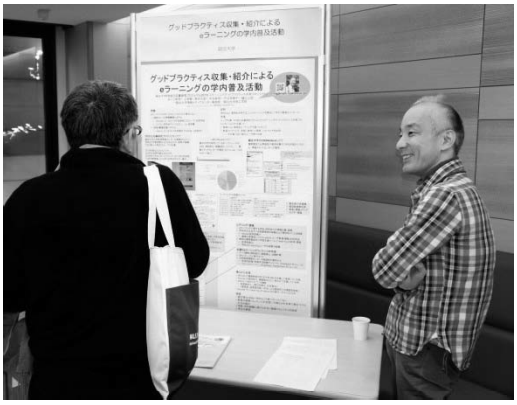


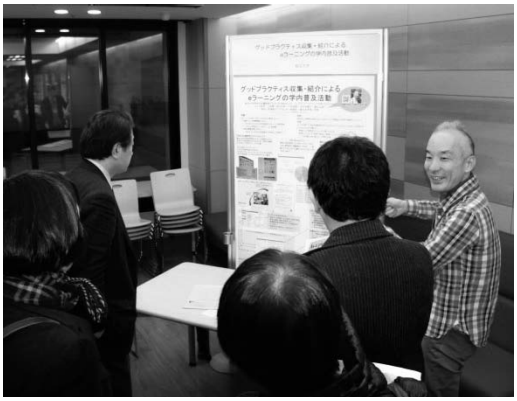


テーマ	課外プロジェクト「ナショナルウィーク」 － 英米語学科主催「オーストラリアウィーク」の紹介 －			
学校名	京都外国語大学			
発表代表者	野澤　元			
連名発表者	河野　弘美	相川　真佐夫		
キーワード	課外活動		プロジェクト運営	
	アクティブラーニング			
概要	京都外国語大学では、2011 年よりナショナルウィークという取り組みを実施し、9 学科がそれぞれの文化圏を学内外にアピールするためにさまざまなイベントを行なっている。本発表では、英米語学科主催の 2013 年度のオーストラリアウィークと学生を中心としたその運営について紹介する。			

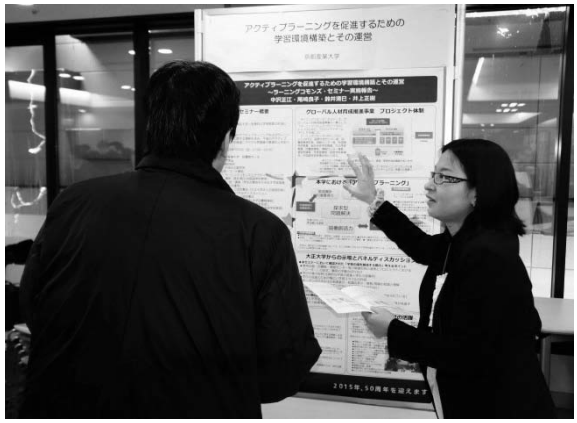
テーマ	グッドプラクティス収集・紹介によるｅラーニングの学内普及活動			
学校名	龍谷大学			
発表代表者	樋口　三郎			
連名発表者	井ノ上　智啓	上原　徹	高田　文彦	中谷　麻里
	丹羽　奈緒子			
キーワード	e-ラーニング		Moodle	
	モバイルデバイス		出席確認	
概要	龍谷大学大学教育開発センターのFD自己応募研究プロジェクトは，有志の教員/職員が応募できる学内GP的な制度である．この制度により，学内でのｅラーニングの普及を図った１年間の取り組みを報告する．ｅラーニングの中でも，特にLMS (Moodle)，携帯電話などモバイルデバイスを用いた出席確認およびコミュニケーションツールに着目し，ユーザのミーティングおよびヒアリングを通してグッドプラクティスを収集し，学内に紹介・広報することを行った。			







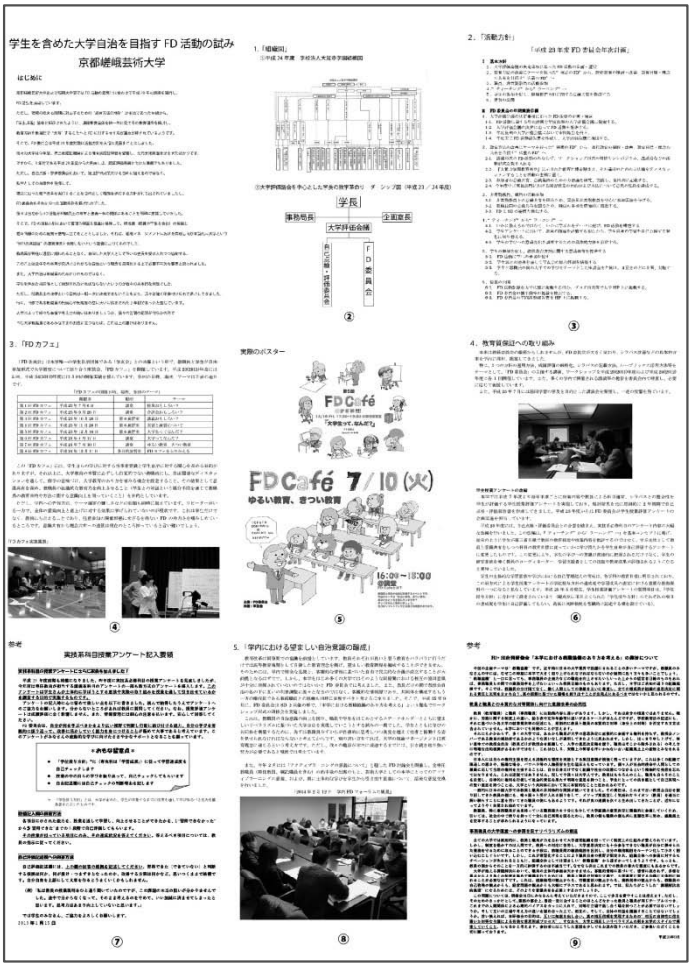
テーマ	アクティブラーニングを促進するための学習環境構築とその運営			
学校名	京都産業大学			
発表代表者	中澤　正江			
連名発表者	尾崎　良子	鈴井　清巳	井上　正樹	
キーワード	アクティブラーニング		ラーニングコモンズ	
	学習環境構築		FD	
概要	本学では、ラーニングコモンズをアクティブラーニングを促進するための学習環境として位置づけている。2013 年 7 月 5 日に行われたラーニングコモンズ・セミナーでは、本学におけるアクティブラーニングの定義や他大学のラーニングコモンズの事例（環境及び運営体制）等について情報を共有した。本発表では、このセミナーの内容と、FD 面での効果についてアンケート結果を元に報告する。			

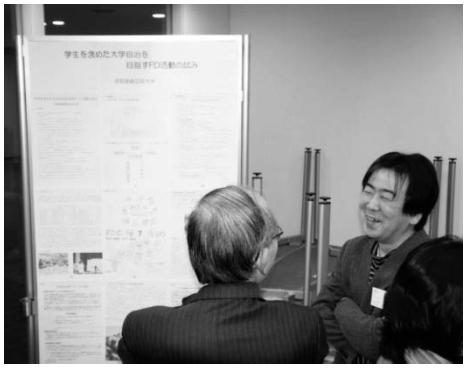


テーマ	大学間連携共同教育推進事業によるリーダーシップ養成 ―西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（UNGL）の取り組みから ―			
学校名	京都外国語大学			
発表代表者	中嶋　大輔			
連名発表者	高島　知佐子	岸岡　洋介	中曽　和美	山崎　その
キーワード	大学間連携		異文化交流	
	リーダーシップ		気づき	
概要	本発表は、京都外国語大学／京都外国語短期大学が参画する「西日本から世界に翔たく異文化交流型リーダーシップ・プログラム（以下、UNGL と称す）」での取り組みについて報告する。 UNGL は、愛媛大学を中心とした西日本の 10 大学によって組織され、文部科学省の平成 24 年度「大学間連携共同教育推進事業」として採択されている。 この UNGL では、社会のグローバル化に伴い能力の多様化・流動化や情報社会への移行などを背景に、地域や国際社会で活躍する人材のリーダーシップ養成が大学に求められる中、1）国内での異文化間研修、2）二国間での異文化間研修、3）多国間での異文化間研修を段階的に展開している。 これらの具体的なプログラムを本発表で提示し、これに参加する学生や教職員が「学内→国内→二国間→多国間」と段階的に立場や文化の差異を乗り越えながら、地域や国際社会で活躍するために求められるリーダーシップを体系的・継続的に養う過程について報告したい。			

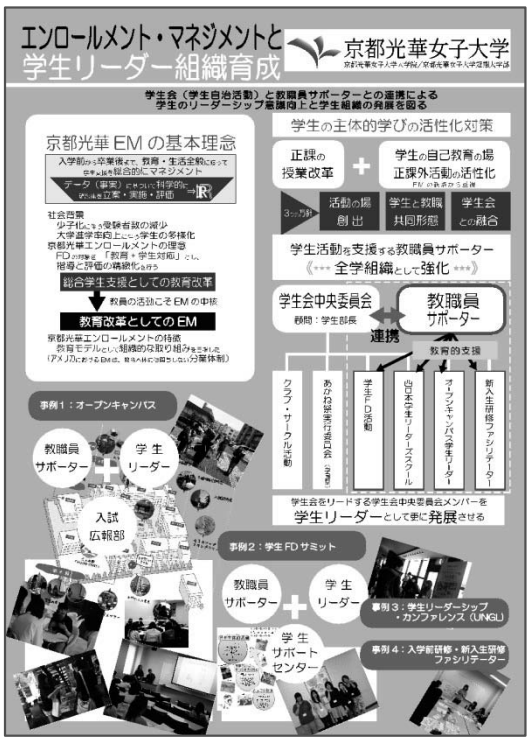
テーマ	立命館大学におけるピア・サポート活動促進の取り組み ―ピア・サポート団体同士のつながりの構築に向けて―			
学校名	立命館大学			
発表代表者	川那部　隆司			
連名発表者	岡本 詠里子	土岐 智賀子		
キーワード	ピア・サポート		主体的な学び	
	部局間連携			
概要	近年、大学教育におけるピア・サポートに注目が集まっている。ピア・サポートは、サポートを受ける学生はもとより、サポートを提供する学生にとっても大きな成長を遂げる機会となっており、学生の主体的な学びを実現する上で、十分な効果を発揮すると考えられる。立命館大学には、長いピア・サポートの歴史がある。現在では 20 以上のピア・サポート団体が存在し、のべ 3,000 名以上の学生がピア・サポート活動に従事しており、量的には非常に充実していると言える。その一方で、さまざまな問題も散見される。その代表的なものが、ピア・サポート団体同士の連携である。これまで、立命館大学のピア・サポート団体は、個別に大学の関連部署と連携し、独自にサポートを提供してきた。結果として、各団体によるサポートは、その範囲が限定されている。しかし、個々の学生が遭遇する困難さは多岐にわたっていることを考えると、より質の高い、包括的なピア・サポート活動が行われるためには、ピア・サポート団体同士の連携が必要であろう。本発表では、立命館大学のピア・サポート団体同士が連携していくための枠組みを構築するために、ピア・サポート団体に所属し、その活動に従事している学生が集まり、それぞれの活動や必要な資質等について議論した内容を基に、今後の課題と展望について検討する。			

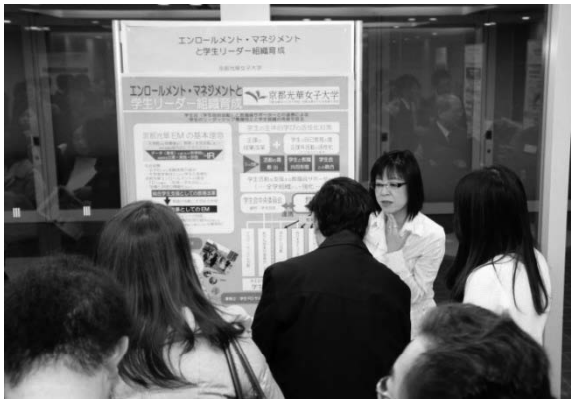
テーマ	学生を含めた大学自治を目指すFD活動の試み			
学校名	京都嵯峨芸術大学・短期大学部			
発表代表者	神谷　三郎			
連名発表者	山本　直樹	佐藤　文郎		
キーワード	自律		FDカフェ	
	自己点検		大学自治	
概要	学生自治組織である学友会との共催の形で、教職員と学生が集まって自由に教育についてディスカッションを行うしゃべり場としての「FDカフェ」の開催状況とそこから得た反省点等を発表する。また、それと並んで、ディプロマ・ポリシーと連動させ、学生が自らの学びを振り返り自己点検する形式の新しい学生授業評価アンケートの試み等、芸術系大学という特殊な条件下でいかに教育質保証を目指しているのかを発表したいと考えている。			





テーマ	エンロールメント・マネジメントと学生リーダー組織育成			
学校名	京都光華女子大学 ・京都光華女子大学短期大学部			
発表代表者	鹿島　我			
連名発表者	吉田　咲子	岡部　友香	橋詰　侑季	宮田　致江
	相場　浩和			
キーワード	エンロールメント		学生リーダー組織	
	学生会（自治会）			
概要	学生の主体的学びを活性化するためには、正課の教育改革とともに、正課外の様々な取り組みを促進することが重要である。そこで、これまで学生の活動の場としては想定してこなかった新たな領域や、学生・教員・職員協働という新たな形態での多様な取り組みを作り出すことが重要になっており、本学では、例えばオープンキャンパスの学生リーダーを作るなどの個々の取組をおこなってきた。一方、従来、学生の主体的活動の核となってきたのは、学生の自治組織である学生会である。しかし、最近の学生の質の多様化や活動の継続性の困難さから、必ずしも主体的活動の核としては不十分に機能していない。そこで、これまで学生任せにしてきた学生会の活動をエンロールメントマネジメントの一環として重視し、これに冒頭に述べたさまざまな新プロジェクトを追加して、教職員がサポートしていくという、新たな学生リーダー組織育成・強化の仕組みつくりを計画している。本発表では、その計画の概要を報告する。			





テーマ	学生 FD スタッフ燦が実施したイベントの成果・課題			
学校名	京都産業大学			
発表代表者	徳田　義貴			
連名発表者	竹谷　美里	若宮　健	金坂　舟	佐藤　里奈
キーワード	学生 FD		イベント実施による成果・課題	
	共創風土の醸成		教職学協働	
概要	燦は、授業改善と大学共創の実現を目的としている。それを達成するためには、学生・教員・職員の枠を超えて三者で語り合う「場」と「機会」が必要である。 今年度は２つのイベント（①学生 FD サミット 2013・夏　分科会Ⅱ「それでも僕は考えたい～学生 FD への『思い』～」、②燦 presents「京産共創」プロジェクトⅢ～僕らが創る新たな絆～）を企画・実施した。 開催した結果、異なる三者の考えを共有し再認識するという成果を得た。その上で、今後の活動にどのように活かすかという課題への対応案を検討している。本発表では、対応案も含め、学生が発表する。			

ポスターセッション